

姿勢保健均整師会五〇周年記念

亀井師範と身体均整法

※姿勢保健均整師会は一九五一年一〇月
身体均整協会として設立され、今日に
至っています。

目次

序章 亀井師範、療術論に取り組み 7

一 はじめに 8

二 亀井師範と療術の出会い 15

三 療術界への問題提起 17

四 『類別克復法』の映す時代背景 19

五 新しい医学の潮流 22

第一章 窮地に立つ療術法制化運動 27

一 京大生活科学研究所『手技療法に関する質問要項』 28

二 厚生省「療術実態調査」と亀井師範 34

三 療術法制化運動の限界 39

四 国—厚生省の厳しい姿勢 42

第二章 亀井師範と療術科学化運動 47

- 一 愛媛県「療術学会記録」に見る亀井師範の活動 48
- 二 亀井師範の解説の意図するもの 51
- 三 突然の異変、その内実 56
- 四 第四回技術学会 59

第三章 亀井師範と愛媛県療術師会の活動 65

- 一 一九五六年における亀井師範の活動 66
- 二 亀井師範の療術研究の視角 74
- 三 亀井師範の療術論の特徴 79
- 四 亀井師範の療術論の哲学 84
- 五 愛媛県療術師会との共同作業 94
- 六 愛媛県療術師会と身体均整法 99

第四章 身体均整法をめぐる療術界の状況 105

- 一 混乱する療術師 106

- 二 法制化運動の前途 110
- 三 按摩講習開催問題 117
- 四 法制化運動存続に向けて 124
- 五 手技療術と按摩の違い 127

第五章 死中に活、身体均整法本格始動 135

- 一 『身体均整法特殊操作法』の発刊 136
- 二 身体均整法の主張 139
- 三 観歪法と類別克復法 144
- 四 観察学としての観歪法 148
- 五 一九五六年当時の身体均整法の姿 154

第六章 戦後社会と身体均整法 159

- 一 身体均整法、もう一つの顔 160
- 二 戦後医療改革 161
- 三 医療のあり方をめぐる改革 167

- 四 戦後医療改革と亀井師範の視点 174
- 五 バックボーンとしての法華経と十如是 177
- 六 身体均整協会の設立趣意書 185
- 七 療術法制化運動をこえて 191

第七章 運動系の医学の確立 195

- 一 療術論の新たな展開に向けて 196
- 二 体質の研究 202
- 三 ポール・シヨシヤール『精神身体医学』 206
- 四 体質の神経生理学 212
- 五 運動系の視点 222
- 六 三大法則 227
- 七 『均整講座集』第二号 231
- 八 療術研究のパスpekティブ 237
- 九 傾斜圧の医学 240

終章 運動系の視点をもたらすもの 251

一 手技としての身体均整法 252

二 運動系の医学 257

三 療術法制化運動の結実 263

あとがき 267